

付録4 卒業論文・修士論文(研究成果報告書)作成マニュアル

大学院経済学院・経済学部

卒業論文および修士論文・研究成果報告書の作成にあたっては、以下の事項に注意すること。

1. 用紙は、原則として、**A4サイズ**を使用すること。
ただし、図表については例外を認める。
2. 原稿は、ワープロソフト・ワープロで作成・印刷すること。
 - ・ワープロソフト等を使用する場合は、明朝体11ポイント前後で、1ページ当たり1000字程度(35字×30行)を目安とする。
 - ・用紙の上下左右に3cm程度の余白を設けること。
3. 分量について
 - ・卒業論文：指導教員の指導を受けること。とくに指示のない場合は、30,000字程度（図表や注を含む）を目安に執筆すること。
 - ・修士論文（研究成果報告書）：特に制限を設けてはいないが、指導教員の指導を受けること。
4. 論文には必ず**表紙をつける**こと。表紙には、下図に従い、論文題目、所属学科（修士論文の場合は、専攻およびコース）、学生番号、氏名ならびに所属ゼミを明記すること。

<表紙>

令和〇〇年度
論文題目
学科名または専攻・専修コース名
学生番号
氏名（所属ゼミ名）

※末尾体裁参照。

5. (1) 論文には必ず**要旨をつける**こと。
卒業論文の要旨の長さは任意とするが、A4サイズの内紙1ページ以内に収めること。修士論文・研究成果報告書要旨の長さはA4サイズの内紙2ページ以内とする。
要旨は、**表紙の次のページ（目次の前）**に配置すること。
- (2) **本文の前（要旨の次のページ）に必ず目次をつける**こと。目次には、章、節などのページを付記することが望ましい。

6. 本文中で、他の文献や資料の記述を引用したときや参照したときは、注などの形で**必ず出典を明らかにすること**。出典を明記しない場合は不正行為とみなされ、北海道大学通則第31条又は大学院通則第26条の懲戒処分の対象となることがある。

記載方法としては、次のような形式がある。

(1) 本文中に次のように記載し、巻末に引用文献・参考文献の一覧を掲載する。

(→ 8. 参照。)

山口慎太郎[2021](p.2)によると、「少子化は政策課題であり続けてきた」。
または、
経済学者の代表的な見解は、「少子化は政策課題であり続けてきた」
(山口慎太郎[2021] p.2) というものであった。

(2) 「注」番号を付け、脚注欄や章・節の終わり、あるいは巻末に引用文献および引用ページを記載する。(→ 8. 参照。)

……その分析結果から、「少子化は政策課題であり続けてきた」⁽¹⁾ という主張が根拠のあるものであることがわかる。

(3) 次のように、本文中に直接『書名』や出版社名などを記載する。

権威ある経済学者の見解では、「少子化は政策課題であり続けてきた」(山口慎太郎『子育て支援の経済学』日本評論社、2021年、p.2) のであり、……………。

(4) インターネットで購入した文献・資料の場合、上記(1)～(3)に準じて記述し、末尾に入手先の URL を記述する。この種の情報は、サーバーの停止などにより、後日参照できなくなることがあるので、参照日を記述しておくことが望ましい。

<http://www.>、(参照 2022-04-01)

※ 出典を明記するだけでなく、引用方法にも注意を払い、出典の文を安易に転用しないこと。例えば、出典の文を「 」を用いないで使用したり、あるいは、英語で書かれた論文の一部を翻訳だけしてそのまま使用したりしないこと。

7. 図表についても、他の文献・資料などから転載した場合には、同様の形式で**必ず出典を明記すること**。

文献・資料に記載されているデータなどから自分でデータを作成した場合も、基になったデータなどの出所を必ず記載すること。

8. 引用・参考文献の著者名や書名などの表示方法の例を示す。

(1) 著書

(邦文文献) 山口慎太郎[2021]『子育て支援の経済学』日本評論社。

(外国語文献) Fumio Hayashi[2000]、*Econometrics*、Princeton University Press.

(→上記6.(1)に対応する表示方法)

または、

(邦文文献) 山口慎太郎著『子育て支援の経済学』日本評論社、2021年、p.2。

(外国語文献) Fumio Hayashi、*Econometrics*、Princeton University Press、2000、p.2.

(→上記6.(2)に対応する表示方法)

(2) 論文

(邦文文献) 陣内了[2017]「景気循環理論と内生的成長理論との統合——研究動向と日本経済への適用可能性——」『経済研究』第68巻第4号、pp.289-302。

(外国語文献) Fumio Hayashi[1982]、“Tobin’s Marginal q and Average q: A Neoclassical Interpretation”、*Econometrica*、Vol.50、No.

1、pp.213-224.

(→上記6.(1)に対応する表示方法)

または、

(邦文文献) 陣内了「景気循環理論と内生的成長理論との統合——研究動向と日本経済への適用可能性——」『経済研究』第68巻第4号、2017年、p.289。

(外国語文献) Fumio Hayashi、“Tobin’s Marginal q and Average q: A Neoclassical Interpretation”、*Econometrica*、Vol.50、No.1、1982、p.214.

※必要に応じて掲載誌名の後ろに発行者名を入れる。

例) 『経済研究』(一橋大学)第68巻第4号、・・・

(→上記6.(2)に対応する表示方法)

※出典の表示も文なので、末尾に「句点」か「ピリオド」をつけるのが原則である。

9. 論文を作成するのに参考となる文献を数冊紹介しておくが、他にも多くの著作が出版されている。自分にあったものを自分で見つけてほしい。

①吉田健正『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』ナカニシヤ出版、1997年。

(コメント) 文章は多少堅めでとっつきにくいだが、標準的な内容。

②河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶應義塾大学出版会、2002年。

(コメント) ①よりも分かりやすいが、その分著者の考えを断定的に押し付けているようなところが見られる。

③木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫、1994年。

(コメント) ベストセラー『理科系の作文技術』(中公新書)の著者が、文系学生向けに書いたもの。形式面についてはやや不満。

④山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』平凡社新書、2001年。

(コメント) とにかく面白く読めるが、ちょっと碎けすぎか。形式面への指示は詳しいが、散在している。

10. 分野によっては記述の仕方が決まっていることがあるので、指導教員の指示を仰ぐこと。その他の不明の点についても、指導教員の指導を受けること。

11. 提出方法は、経済学部WebサイトまたはELMSのお知らせよりご確認ください。

12. 表紙の見本は、経済学院・経済学部ホームページを参照すること。

http://www.econ.hokudai.ac.jp/s_affairs/s_guidance

令和〇〇年度
北海道大学経済学部 卒業論文

1990年代以降の東アジア経済圏の成長と
わが国中小企業の競争力
—技術開発力の視角から—



(●●ゼミ)
経済学科 01000000
経済太郎

令和〇〇年度
北海道大学大学院経済学院
修士論文

1990年代以降の東アジア経済圏の成長と
わが国中小企業の競争力
—技術開発力の視角から—



(●●ゼミ)
現代経済経営専攻
17003000
経済太郎



令和〇〇年度
北海道大学大学院経済学院
研究成果報告書



1990年代以降の東アジア経済圏の成長と
わが国中小企業の競争力
—技術開発力の視角から—

(●●ゼミ)
現代経済経営専攻
(経済政策コース)
17003000
経済太郎

表紙のデザインは自由ですが、「論文題目」と「名前」の位置は変更しないでください。